

京都府職員採用試験ガイダンス用資料

文化力による未来づくりについて

令和2年3月

京都府文化スポーツ部文化政策室

京都の強み・ブランド力の源泉は文化

- 京都府には伝統産業や文化財が集積するとともに、各地域で多彩な文化が息づき、「文化」が京都の強み・ブランド力の源泉となっている。

伝統産業の集積

- 京都府は国指定伝統工芸品の品目数が全国2位

文化財の集積

- 府内の国宝(234件)・重要文化財(2,188件(国宝含む))の件数は、いずれも全国2位。無形文化財も多数存在

個性豊かな地域の文化

- 各地域の祭りや伝統芸能、地蔵盆等の行催事、地域特性を活かした食文化など、各地域において多彩な文化が暮らしの中に息づいている

新たな産業の移転、観光客の来訪

- 京都の伝統文化・社寺があることから、技術開発拠点を京都に開設 (LINE上席執行役員/京都新聞インタビュー)
- 外国人が訪日前に期待したことの第1位は「和食」を食べること
※観光庁 平成29年度「訪日外国人の消費動向」

<伝統工芸品国指定品目数>

都道府県	品目数	品目の例	参考
東京都	18(1)	江戸木版画	1位
京都府	17	西陣織 京焼・清水焼	2位
新潟県	16(1)	新潟漆器	3位

全国計

235

※品目数の()内の数字は、指定が他の都道府県と重複する内数

<国宝・重要文化財数>

都道府県	国宝	重要文化財	参考
東京都	281	2,806	いずれも1位
京都府	234	2,188	〃 2位
奈良県	203	1,327	〃 3位

全国計

1,117

13,244



文化庁の京都移転

● 京都への文化庁移転が決定し、移転準備と機能強化が着実に進捗

- 平成28年3月 「京都への全面的な移転」が決定
 - 平成29年4月 文化庁地域文化創生本部設置
 - 平成29年7月 組織体制の大枠・移転場所・移転時期などが決定
 - ・移転場所：現京都府警察本部本館
 - ・本庁が京都に置かれ、長官・次長をはじめ約7割の職員（250人程度以上）が配置
- ⇒ 京都府において、新庁舎の整備中

着実に進む文化庁の機能強化

① 文化芸術基本法の施行（平成29年6月）

- ・食文化の振興をはじめとする文化政策の対象拡大

② 文部科学省設置法改正法の施行（平成30年10月）

- ・文部科学省及び文化庁の任務として、文化の振興に加え、文化に関する施策の総合的な推進を位置付け

- ・予算：1,082億円（平成30年度）→ 1,166億円（令和2年度）
- ・定員：231人→294人（令和2年4月～）



文化庁移転の意義・効果

●文化庁の京都移転を契機として、文化に根ざした京都のブランド力に更に磨きをかけていくとともに、「政治・経済」と「文化」の双眼構造を実現



京都として目指すところ

「政治・経済」と「文化」の双眼構造による経済・文化両面から日本創生を！

「政治・経済首都」

政治・経済の国際交流のハブ
新産業の創造による経済成長



「文化首都」

文化の国際交流のハブ
文化芸術を起爆剤とした日本創生

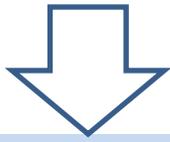
「文化芸術立国」の実現

京都府の文化行政について

平成17年 京都府文化力による京都活性化推進条例 制定

府内の優れた文化の力を「文化力」と位置付け、
全国に先駆けて観光を中心とした地域の活性化に活用

平成29年6月 「文化芸術基本法」の改正・施行



条例制定以降の文化政策を取り巻く社会情勢の変化と、法改正等による国文化行政の対象拡大、保存・継承から活用への転換へ一早く対応すべく、

平成30年7月「**京都府文化力による未来づくり条例**」制定

平成31年3月条例に基づく

「**京都府文化力による未来づくり基本計画**」策定



令和元年10月策定の「京都府総合計画」にも趣旨を反映

京都府総合計画 「文化創造」きょうとチャレンジ

- 地域文化を大切にするとともに新しい文化が生まれ続け、地域に活力を生み出す社会づくりを、文化庁が本格移転する京都から推進

新たな文化創造

- ミュージックキャンプ・府民総合奏
- 障害者アート創造・発信プロジェクト など

観光・産業との融合

- 京都国際アートフェア
- 地域文化次世代情報発信・体験拠点 など

人材育成・活動拠点整備

- 堀川アート&クラフトセンター(仮称)
- 北山エリア「シアターコンプレックス」 など

文化の保存・継承・活用

- 文化財保存・活用促進プロジェクト
- 地域文化継承プロジェクト など

府民・地域・企業・大学、文化・芸術関係者等と共に取組を進めたい事項

【府民・地域】

- 地域に受け継がれてきた祭りや伝統芸能の保全と、次世代への継承 など

【企業・大学】

- 和食や文化芸術に携わる人材の育成とバックアップ など

【文化・芸術関係者】

- 文化芸術の視野拡大に向けた多様な体験の機会提供 など

京都からの文化発信

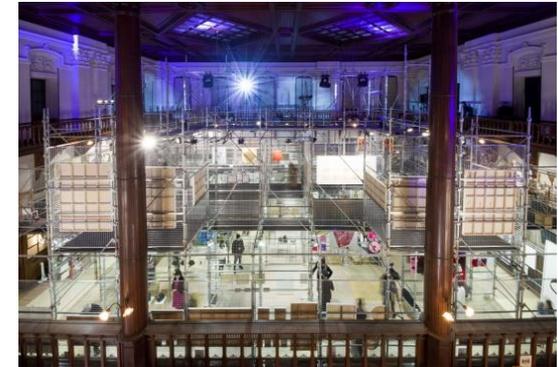
- 2020東京オリンピック・パラリンピック等にあわせて、令和2年度には京都の文化を国内外に発信する下記の取組を実施予定

京都国際アートフェア(仮称)の開催

期 間 令和2年11月5日～8日

会 場 国立京都国際会館 他

- アーティストフェアプレミアム展
- 京都国際現代アート展
- 日本画・美術工芸作家フェア



京都文化カプロジェクト2016-2020の開催

京都文化芸術祭2020(仮称)

- 4年間の集大成として、府市協調で京都府全域の伝統文化の魅力を伝える「総合的な文化の祭典」を展開

「日本博府域展開アートプロジェクト」の開催

- 文化庁のメディア芸術総合フェスティバルと連携し、昨年好評を博した「光のアトリエ」に引き続き、府域でメディアアートを展開



文化財の保存と活用の一体的な推進

文化財保存活用支援

- 保存・活用の前提となる現状把握のための文化財の保存活用調査
- 活用を見据えた保存修理に対する支援
- 修復した文化財や民俗文化財等を活用したモデルツアーの開催等

京都府が取り組むその他の文化施策例

全国高校生伝統文化フェスティバル

- ◆ 日本の伝統文化に勤しむ全国の高校生が一堂に会する文化フェスティバルを開催
- ◆ 国内外に日本文化の素晴らしさを広め、日本各地での伝統文化の次世代への継承・発展

【令和元年度開催概要】

1. 伝統芸能選抜公演

- (1)開催日時 令和元年12月15日(日)
- (2)会場 京都コンサートホール
- (3)大会テーマ 『大切にしたい日本のこころ』
- (4)内容等 開会式(プロローグ、歓迎プログラム)
全国校公演(郷土芸能・日本音楽・吟詠剣詩舞各部門)
京都府内特別支援学校生徒作品展示、交流呈茶(有料・定員有)等



2. 茶道フェスティバル

- (1)開催日時 令和元年12月14日(土)・15日(日)
- (2)会場 京都府立京都学・歴彩館、京都コンサートホール
- (3)大会テーマ 『一期一会 心かよわせて』
- (4)内容等 14日 記念講演、高校生による歓迎呈茶、ポスターセッション等
15日 伝統芸能選抜公演観覧者への交流呈茶(有料・定員有)
茶道に関わる体験・研修等(茶道フェス参加校対象)



ARTISTS' FAIR KYOTO (平成30年度実績)

- 入場者数 5,512人
- 出品作家数 52人(内、若手作家45名)
- 出品点数 352点
- 販売成約額 25,515,736円(376点)※終了直後時点
- 開催日程 平成31年3月2日(土)、3日(日)
※1日(金)特別内覧会
- 会場 京都文化博物館別館、京都新聞ビル印刷工場跡
- 既存のアートフェアと異なり、アーティストが企画し、出品者となり、運営する新たな仕組みのアートフェアを昨年度に引き続き開催。
- アドバイザリーボードに名和晃平ら、現役で活動するアーティスト13名を迎え、若手アーティストを選出。20代～30代前半の若手アーティスト45名が中心となるとともに、アドバイザーボードも応援出品。
- 重要文化財の京都文化博物館別館と京都新聞ビル印刷工場跡をまったく別の空間に生まれ変わらせ、新会場の印刷工場跡では映像やインスタレーション作品を展開。
- 国内のみならず海外からの来場者も集め、入場制限の時間帯も。

➡ 残念ながら令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催直前に中止に...



日本博府域展開アートプロジェクト

- ◆ 文化庁が進める「日本博」の一環として、府域全域で地域文化と現代アート等を組み合わせた多彩なプロジェクトを展開
- ◆ 地域の文化に触れる新たな機会の創出により、観光誘客の促進、地域経済の活性化



【令和元年度開催概要】

光のアトリエ

【丹後地域】

「太古から未来へと続くみち」をテーマに天橋立を舞台に地域の風土、生活文化を題材とし、光と音のデジタルアートを中心とするアート・プロジェクトを展開

(天橋立公園、元伊勢籠神社、成相寺等)

<主要プログラム>

○天橋立砂浜ライトアップ【7～9月】

○メディア・アートフェスティバル(デジタルアートの作品展示及びライブパフォーマンス)【9～11月】

○成相寺紅葉ライトアップに併せた世界的アーティストによるスペシャル演出【11月】



空のアトリエ

【中丹地域】

アーティストのリサーチにより、地域文化を活かしたアートプロジェクト

【南丹地域】

亀岡市を中心に行ったりサーチをもとに、アーティストによる地域の新しいアートドキュメントを作成する、「大京都」を開催



大地のアトリエ

【山城地域】

全国から若手アーティストを公募し、芸術系大学教授等の助言のもと、各自が設定したテーマに沿って、フィールドワークや地域住民の協力を得て地域を調査し、発見を活かした作品プランの構想を立て、次年度の作品展示へと繋げる。



➡ 亀岡市の「大京都も」新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止に...